



岸田劉生「自画像」1913年

大正から昭和初期にかけて、自由で開放的な時代の空気を背景に、日本の洋画界は海外から移入した新思潮の影響で多様な前衛的表現が生まれていました。

しかし、この時代に、新しい潮流とはむしろ逆行するように特異な作品を生み出したのが、岸田劉生（1891-1929）でした。劉生は17歳で黒田清輝に学んだ後、「白樺」同人との交流でゴッホやセザンヌの作品を知り、さらに美術史を遡ってデューラーなど北方ルネサンスの影響を受け、緻密な描写で神秘性を帯びた表現に至りました。娘・麗子が生まれてからは、数多くの麗子像を描き、鶴沼時代には、風景、静物、麗子、村娘お松など対象の存在を深く見つめる「内なる美」の探求へと進み、劉生芸術は一つの頂点に達しました。さらに、関東大震災後、京都に移住し、宋元画や南画、浮世絵に没頭し、東洋的感覚を自らの作品に反映させようと試み、38歳という短い生涯を閉じています。

一方、北海道では1916(大正5)年、札幌で開かれた第9回黒百合会展で、有島武郎が持参した岸田劉生作品に高い関心が寄せられ、三岸好太郎は多大な影響を受けました。1922(大正11)年劉生は、院展同人との交遊から、春陽会の創立に加わり新たな活動の場とします。そこには、小樽ゆかりの長谷川昇、山崎省三が創立に加わり、三浦鮮治・兼平英示兄弟が後に続きました。東洋画の手法や発想に立つ画風を有する春陽会においても、劉生は大きな位置を占めたことから、周囲に与えた影響ははかり知れず、小樽ゆかりの画家たちの、写実を基礎としながら、どこか東洋的な文人趣味の作風に、相通するものを感じます。

本展は、近代日本美術において最も高く評価される画家の一人、岸田劉生の「麗子十六歳之像」「村娘之図」など代表作に加え、麗子の姿が随所にちりばめられた装幀をはじめ、油彩、水彩、墨画、素描、版画作品等に関連資料などを含めた約50点により、劉生芸術をご紹介します。同時に、春陽会の草創期に関わりそれぞれの個性を開花させた、大正から昭和初期の小樽ゆかりの画家たちの作品を通じて、近代洋画の魅力にふれていただくものです。



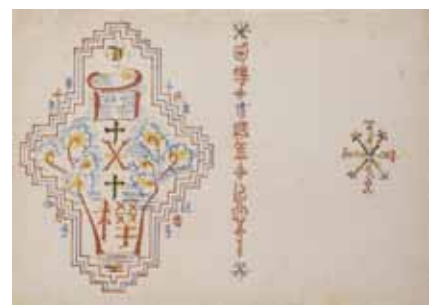
山崎省三「スペインのコスチューム」1930年



長谷川昇「幼児像」1915年頃



岸田劉生「丸山君之像」1921年



岸田劉生「白樺」十周年記念号表紙」1919年



岸田劉生「手」1916年
小樽芸術村蔵

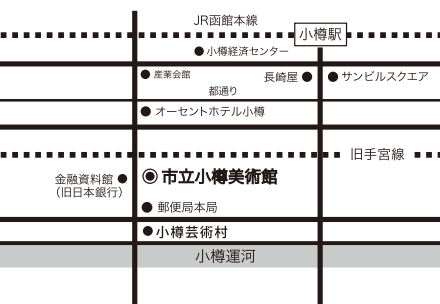
■ 関連事業 ■ アートレクチャー ■ *観覧券が必要です

- 第1回「画家とモデル、画家と娘」
7月16日(土) 14:00~14:30 特別展示室内 山田菜月(市立小樽美術館学芸員)
- 第2回「かき残されたもの—岸田劉生の日記より」
8月7日(日) 14:00~14:30 特別展示室内 金澤聡美(公益財団法人似鳥文化財団 小樽芸術村学芸員)
- 第3回「岸田劉生と白樺派—装幀画をめぐる」
8月20日(土) 14:00~15:00 研修室・特別展示室内 亀井志乃(市立小樽文学館長)
- 第4回「大正昭和初期の小樽画壇」
9月3日(土) 14:00~14:30 特別展示室内 星田七重(市立小樽美術館主幹)

連携事業・観覧料相互割引

似鳥美術館にて
岸田劉生作品展示中!

2022年7月16日(土)~9月19日(月・祝)
開館時間:9:30~17:00(最終入館16:30まで)
会場:似鳥美術館3階(小樽市色内1-3-1 小樽芸術村)
料金:一般1500円、学生1000円、高校生700円、小中学生300円



市立小樽美術館
otaru city museum of art

〒047-0031 小樽市色内1-9-5
Tel:0134-34-0035 Fax:0134-32-2388



岸田劉生「静物(リーチの茶碗と果物)」1921年
小樽芸術村蔵

市立小樽美術館
「岸田劉生<麗子>とともに」展の
チケットご提示で2割引

小樽芸術村

〒047-0031 小樽市色内1-3-1
(似鳥美術館)
tel.0134-31-1033 fax.0134-31-1035